

通信小海

「神の限りない愛」

牧師 荒粉 実 あらのこみ じつ

「放蕩息子」の譬えは聖書の中でも有名で、そのあらすじは、こうです。

ある人に二人の息子がいました。弟が父に財産の分け前を要求し、父が与えると、彼は譲り受けた財産をもって遠い国に旅立ち、そこで放蕩し、財産を湯水のように使い果たしました。その地方に大飢饉が起こり、無一文になった弟は、豚の世話をしながら非常に苦しい生活を送ります。貧困の中で彼はふと我に返り、自らの帰るべき場所を思い出して、父のもとに帰る決断をし、自分の家へ帰ります。父は弟息子を咎めることなく、無条件でその罪

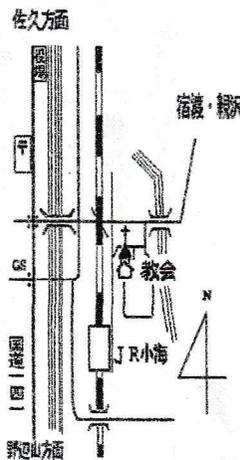
「今月のみことば」「食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」
ルカの福音書15章23節後半、24節前半

を赦しました。そして、愛する我が子が帰ってきたこと自体を心から喜んで言います。「食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」

家の財産で遊び暮らす放蕩息子の話は、いつの時代にもありそうですが、この譬えを父に注目してよく読むと、果たしてこのような父親が実際にいるだろうか、と、よほどあり得ないと思われることに気が付きます。第一に、弟息子が父に対してあまりにも無礼であり、身勝手極まりないにも関わらず、父親が通常では考えられない寛容さであることです。どんなに優しい親でも、自分勝手にやりたい放題した子どもを、ただ赦すだけでは収まらない

日本同盟基督教団 小海キリスト教会
南佐久郡小海町大字小海四三五五―二七
〒三八四―一〇二 TEL 0267-887-7169
〒振替 00530-0106-6833

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜礼拝

朝 十時〜十一時半

夕 二十時から二十一時

★毎月、第四日曜日は『歓迎礼拝』です。

心よりお待ちしております。

★12月14日(火)13時30分〜15時

『小海がん哲学カフェそと』開催

○後援 一般社団法人がん哲学外来

*初めての方も安心してお越しください。

*個人的な聖書勉強やご相談にも遠慮なくお越しください。

※当教会は、エホバの証人・統一教会ではありません。

のではないでしようか。しかし、そのあり得なさが、この譬えを通して、一番伝えたいことなのです。つまり、息子を愛する父は、この世界を創造された神であり、神の人間に対する愛が、どれほどのものであるかを表しているのです。

全人類は、一人の例外なく、神に造られた被造物です。それにも関わらず、造り主である方を忘れ、神に背を向けて歩む人間は、父の存在を無視して、遠く離れたところへ出て行った弟息子のようにであり、神が造られたこの世界にある資源を乱用している人間の姿や、自分自身に与えられている時間や能力、命そのものを自分の思うまま使いたいように使っている姿も、与えられたものを放蕩している弟息子と同じであると言えます。それでも神は、そんな私たちを愛し、あなたが創造主なる神のもとに帰ってくる日を今も待ち続け、

どんなに大きな罪を犯したと自分を責めていても、無条件で赦し、愛を持って迎えて下さるのです。クリスマスは、この神の限りない愛が現わされた日です。



聖書を読んだサムライたち

もうひとつの幕末維新史

守部 喜雅【著】

第四章

梅子、七歳のアメリカ体験

⑤

一八七三（明治六）年、梅子が洗礼を受けたその年の一月、日本からオーストリアのウィーンで開催されていた万国博覧会に参加するため、政府派遣団七十名が、フランス船「ファーズ号」に乗船して横浜港を出港

しました。この一行の中に、梅子の父親の津田仙もいました。津田仙は、勝海舟や福沢諭吉とも親交のあった明治の大物の一人です。少し詳しく紹介してみましよう。

津田仙は、一八三七（天保八）年八月六日、下総国（今の千葉県）、佐倉城下天神曲輪に生まれました。父、小島善右衛門良親は佐倉藩主堀田正睦に仕え、藩からは百二十石の禄を受けていました。仙が生まれた少し前の時代は、江戸文化が最も華やかな時代と言われ、それだけに幕府も豪華な生活におぼれ、一般庶民にも浪費と利那的快楽が蔓延していました。

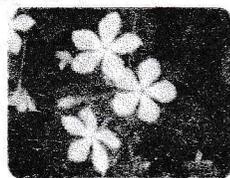
《続く》

津田梅子（一八六四～一九二九）

明治の女子教育の先駆者。六歳で、岩倉使節団に同行してアメリカに留学、滞在中にキリスト教の洗礼を受ける。津田塾大学の前身である「女子英学塾」を開校、塾長となった。

ニチニチソウ

日日草・日々想



靴屋のマルチン

毎月一回、土曜日に教会で開催しているハレルヤキッズでは、いつも聖書の紙芝居を読むのですが、十一月にクリスマスに向けてリースづくりをする時は、クリスマスや聖書にまつわる絵本を選んで読みます。この時季に関連する絵本が豊富にあるからというだけでなく、聖書のみことばやそのメッセージを、より身近に感じて欲しいという願いもあります。

先月、読み聞かせをして頂いたのは「くつやのまるちゃん」というお話です。ロシアの文豪トルストイの「愛あるところに神あり」という短編を原作とする作品で、妻や子どもに先立た

れ、孤独の中を生きる年老いた靴屋のマルチンが、神様のことばに触れて慰められ、少しずつ立ち直りながら、神様の愛と一つとされていく物語です。

これまで何度も読んだことのある絵本でしたが、じっくり読み返してみると、人として大切にしたい普遍的価値が語られている以上に、イエス様がどんなお方かということが、優しく深く伝わってきて、新たな感動がありました。

マルチンが雪かきのおじいさんを家に招いてお茶をごちそうしたり、赤ちやんを抱いた貧しい女の人にパンとスープを食べさせ、自分の上着をあげたりと、貧しい人、力のない人、病気の人、家のない人を愛して、その中に居てくださるイエス様の愛を伝える姿に、愛は、言葉や思いだけでなく、実際の行動があつて初めて伝わるものだということを改めて思いました。また、おばあさんのりんごをとろうとした男の子とおばあさんが、マルチンの仲裁で和解した時、「ゆるすつてことは、むずかしいけどとてもたいせつなことのようにだ」と言っ

たマルチンの言葉が心に迫ってきました。

本当にそうだと思います。貧しい人や困っている人に親切にすることはもちろん、「ゆるす」ということについて、頭の中で概念としては理解できても、本当に実行することができるかと考えると、自分の姿は、日常の小さな出来事に対してさえ、それとは相反するものであることを否認できません。しかしイエス様は、誰よりも優しく、分け隔てなく、誰もが大事にしてもらうべき大切な存在であることを伝え、何よりあの十字架の上で、愛することは赦すことであること、身をもって示されました。

クリスマスを待ちわびるアドベント。子ども達に渡したカードに記した「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。」という聖書のみことばを忘れずに思いながら、今一度、主の愛の中に立ち返って歩みたいと思わされます。

「愛あるところに神あり」
私の心の中にも、イエス様が居て下さいますようにと祈りながら。



Merry Christmas

メリークリスマス



私たちの救い主、イエス・キリストがお生まれになったクリスマス。
 「クリスチャンではないけれど、教会へ行ってみよう」
 と思われる方。ぜひ、教会へお越しください。
 すべての人を照らすまことの光であるイエス様のお誕生を
 共にお祝いし、心に平安と希望を頂きましょう。
 神様の祝福があります。

★日曜礼拝 毎週日曜 朝 10:00~11:30

★クリスマス礼拝

19日(日) 10:00~11:30

★クリスマスイブ礼拝

24日(木) 18:00~19:00

場所：小海キリスト教会 (小海4355-27 見晴台)

*いずれの礼拝も新型コロナウイルス感染予防対策のため、換気をしています。
 防寒、マスクの着用、手指アルコール消毒、検温にご協力ください。

生活困窮者支援

山谷(やま)農場

一年の感謝を込めて

支援して下さいましたお一人お一人の上に、神様の豊かな祝福がありますように。必要としている方々に食料が届けられ、この年末年始を過ごすことができますよう、お米、海苔、切手、ハガキ等、物資の提供をどうぞよろしくお願い致します。

〈連絡先〉藤田 寛

☎ 090-1436-6334

FAX 042-7866-2008

✉ メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

〈物資送付先〉小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384-1302南牧村大字海ノ口966-15南牧村社会福祉協議会 気付 山谷農場事務局(藤田)

*着払い送付はご遠慮ください。

*土曜日の配達指定をお願いします。

カンパ：〒振替〇〇二四〇四一五三七九

☆活動の近況などは、山谷農場フェイスブックをご覧ください。

